

令和元年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	富士見縄文推進事業
事業主体 (連絡先)	富士見町商工会 諏訪郡富士見町落合 10078-1
事業区分	地域協働の推進に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	4,115,461 円 (うち支援金 : 3,292,000 円)

事業内容

- ①富士見縄文推進委員会の設立
6月6日14名で委員会を設立。
- ②縄文フードコンテスト
6月27日町内商工業者宛募集し、14事業所18品応募。
縄文フード認定証の発行、チラシなどにてPR。
8月5日一般募集し、6名6品応募。
縄文ハロウィン時にレシピの公開及び表彰の実施。
- ③縄文講習会
 - ・9月28日こども縄文レストラン開催
98名参加し、かまどづくり・火起こし・おかゆづくり・縄文のはなし・黒曜石による肉切などを体験。
 - ・1月25日縄文冬ものがたり～古代米でもちつきしよう～
97名参加し、古代米のもちつき・縄文のはなし・縄文クイズを行う。
- ④縄文ハロウィンイベント
 - ・10月10日プレイベント
162名参加し、かぼちゃ掘(彫)り(ジャック・オー・ランタン作り)及び縄文のお面作り。
 - ・10月12日縄文ハロウィンイベント
台風19号により、11月2日に延期して開催。
約500名参加し、縄文キッズエリア、仮装パレード、縄文フードコンテストの表彰及びレシピの公開、町内各縄文クラブ活動の発表などを行う。
- ⑤縄文情報の受信及び発信、映像の集約
HP開設し、当町の縄文情報の収集・発信。
地域住民との協働作業による各種イベント事業を映像集約。
- ⑥アンケート調査の実施
下記4事業でアンケート調査を行う。
 - ・9月28日こども縄文レストラン
 - ・10月10日プレイベント
 - ・11月2日縄文ハロウィンイベント
 - ・1月25日縄文冬ものがたり～古代米でもちつきしよう～
- ⑦地域住民の“縄文”への意識の高揚を図る
7月～9月にかけて3種類各200本の縄文のぼり旗600本、富士見・境駅周辺、町内各公共施設・商店街・観光施設などに設置。



【こども縄文レストランの様子】

【目標・ねらい】

- “縄文をコンセプト”とした取組みにより、
- ①多世代による地域住民との協働事業により、地域愛を育み、地域力アップを図る。
 - ②商店街に地域コミュニティー機能の向上を図る。

※自己評価【 A 】

【理由】

- ・組織が14名から41名に増加した。
- ・各事業を通じて“縄文をコンセプト”とした地域住民との協働事業を実施しながら多世代の交流が図れ、地域愛を育み、地域力アップへのスタートができた。
- ・事業の中には、商店街での事業もあり、商店街に地域コミュニティー機能の向上が図れた。
- ・小学校のクラスで授業の一環として当事業に関わり協働事業として実施できた。
- ・事業を通じて、「食における新しいコンテンツ」が誕生した。

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

①富士見縄文推進委員会の設立

6月6日14名で委員会を設立。報告書作成時41名と27名の増となり、“縄文”をコンセプトとした各種事業が充実した内容で展開でき、継続して行える組織となった。

②縄文フードコンテスト

町内飲食店より、14事業所18品応募があり、一般からは、6名6品応募があった。各イベントにて紹介及びチラシにてPRして行く中で、当町に「食における新しいコンテンツ」が誕生し、今後、食における地域振興・郷土愛などに結び付けていく事業展開を図っていく事となった。

③縄文講習会

2つの事業展開により、次世代を担う子どもたちに幼少期から井戸尻の“縄文”について体験学習してもらう事で、当地の“縄文に関わる資源”を誇りに思い、郷土愛を育み地域力のアップが図れた。子どもたちが大人になるまで、継続して行う事で、最終的な目標が達成される。

今後、当事業は、子どもたちの事業として行っていくこととし、「縄文子ども委員会 富士見」と称し展開していく事になった。

④縄文ハロウィンイベント

プレイベントから縄文ハロウィンイベントまでの流れは、家族を中心とした多世代の交流の場であり、商店街の地域コミュニティ機能の向上への場であったが、台風19号により、両事業（彫ったかぼちゃは3日間くらいしか持たない為）は切り離しての事業となる。

しかし、今年度から地域住民の方との協働事業とした事により、小学校に通うお子さんのクラスで授業の一環として当事業に関わっていただく事が出来、そのクラス及びそのクラスのご家族の方々と商店の方々との交流が図られ、縄文ハロウィンイベントに、小学生が企画し実施する“キッズエリア”などが設営されたり、小学生が考えた“カボチャ大福”を実際に製造販売する商店もあり、商店街における“地域コミュニティ機能”が大きく向上した。今後も一部子どもたちとの協働事業として、継続していく事で更なる向上を目指す。

⑤縄文情報の受信及び発信、映像の集約

町内の“縄文”内容を発信したり、記録としてHP上やDVDに焼いて残し、会議の前や各事業開催時に流し、共有する事で多世代による郷土愛を育み地域力のアップを図った。

また、毎年映像を残すことにより、この事業に携わり町外で生活するようになった方は、当時の映像をHPで見ると郷土への思いを刻み、町内の方は励みとしていただくためのスタートが出来た。早速、当会の事業にご協力いただいた団体から貸して欲しいとの申出があり現在貸出中である。

⑥アンケート調査の実施

事業終了時4回行った。

それを集計し各委員会内で検討し、次へのステップとしていただいた。また、アンケート票回収時に、口頭で“縄文に関わるイベント”に対して、ご提案いただく方もいて、2名の方が当会に参加し一緒に企画段階から事業実施まで携わっていただくようになった。

⑦地域住民の“縄文”への意識の高揚を図る

アンケート調査にて、調査の回数が増える毎に「日本遺産認定」の事を知る方が増えた。また、何で知ったかについては、最終4回目の調査にて当会が行う“イベント”に参加して及び町内に設置した“のぼり旗”と回答される方が82%強であった。

全町に“のぼり旗”が設置して地域住民で管理をし、イベント会場も境と富士見の両方で行い、当会のメンバーも町内各区の方から構成しているなど地域住民の“縄文”への意識は高まっている。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

- ①組織的には、幅広い層のメンバーとなり、様々な考えを出せる組織となった。メンバーからの声掛けなどにより、更に増やし継続可能な組織とする。
- ②当町に“縄文”の「食における新しいコンテンツ」が誕生したことを受けて、「縄文フード委員会」を立上げ、常時食における地域振興・郷土愛などに結び付ける事業展開を計画し実施していく。最終目標は、食による地域特産品・土産品及びブランド化。
- ③「縄文子ども委員会 富士見」内に子どもが組織する委員会を立上げ、根底を広げていく。
- ④継続事業として今年度同様に次年度以降開催するイベント及び準備段階からの映像を残し、共有することで多世代による郷土愛を育み地域力アップを継続的に図る。
- ⑤“縄文”について各小学校と連携を図り、生徒の「総合的な学習の時間」に取組める内容を模索し、生徒たちとの協働事業への取組を継続的に行える体制を構築する。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある